

（４）１年毎の余震発生回数の推移

東北地方太平洋沖地震発生前後の地震回数を、0.5 度毎に区切った領域で比較した結果を図4に示す。本震で大きなすべりの生じた領域付近の地震活動は低下したが、それに沿った沿岸に近い領域と海溝軸付近の領域では、依然として本震発生前に比べて回数の多い状態が続いている。

※ 東北地方太平洋沖地震発生前の10年間（2001年～2010年）のM4.0以上の地震の年平均回数に対する各期間の年地震回数の比。ただし、2001年～2010年にM4.0以上の地震が発生していない領域については、0.1回/年として計算している。

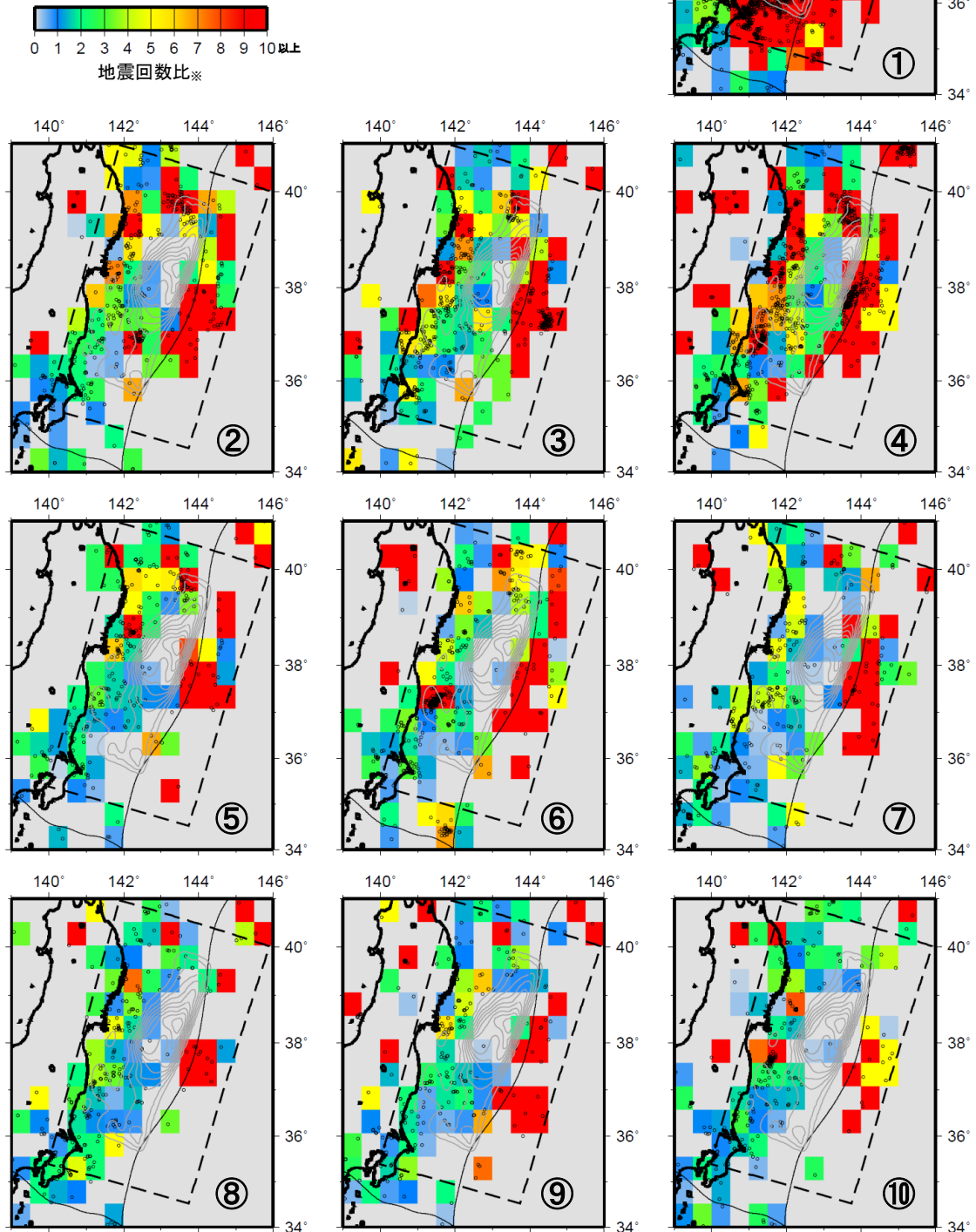


図4 東北地方太平洋沖地震発生前に対する発生後の1年間毎の地震回数比（ $M \geq 4.0$ 、深さ0～200km）

右上の①は本震発生から1年間の図、②～⑩は順に本震発生1年後から1年間～本震発生9年後から1年間の図をそれぞれ示す。黒丸は当該期間の地震の震央、点線枠は東北地方太平洋沖地震の余震域を示す。2020年9月1日のS-net活用開始後、海溝軸東側の一部地震は従来より東寄りに震央が決定される傾向があり、⑩の図にはその影響が表れている可能性がある。灰色の細線は東北地方太平洋沖地震時のすべり分布（Yoshida et al., 2011）を示す。海溝軸（黒細線）の位置は日本列島周辺域のプレート境界面分布（<http://evrrss.eri.u-tokyo.ac.jp/database/PLATEmodel/>）の海溝軸データを使用した。